
天上天下唯我独尊高校

クロイツ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天上天下唯我独尊高校

【NZコード】

N7067F

【作者名】

クロイツ

【あらすじ】

天上天下唯我独尊高校、そこは才能にあふれた数々の天才が集う天才の、天才による、天才のための高校である。これは、そこに通うことになった『普通』の主人公が奮闘する凡人の普通ならざる日常をだるーい一人称で描いた物語である。

(前書き)

思いつきで書いてます。もう後先考えずひたすら思い付きます。ところでもう一方の連載のほうは書き直そつかと思っています。趣味で暇なときに書いてる自己満足小説なので。完結はしたいとおもっていますが。

よろしけつたら感想くれたらうれしいです。

四月、桜が舞い散るなかポカポカとした陽気に包まれ俺は高校の校門前に立っていた。時間はまだ八時を少し過ぎたくらい、まだ始業式には充分間に合つ。

俺は校門からこれから通う校舎を見上げ、この高校へ通うこととなつた理由を思い出していた。

ことの始まりを話すには一週間前にさかのぼらなければならぬ。二週間前といえばちょうど高校入試の結果発表の日だ。普通ならばのどから心臓が飛び出るほど緊張だつと思つ。しかし、俺は緊張など微塵も感じていなかつた。

それどころか結果はわかりきつていたので念屈を見に行くこともなかつた。勘違ひしてもらいたくないので、ここで俺は頭がいいんだ。Z・E！…とか思つてているのではないことをここに書つておきたい。

俺は今まで『普通』以外の出来事に遭遇したことがない。中学のころ、いや小学生の頃からテストではいつも平均点だつたし（言つたいのは平均点近く、ということではな）平均点ピッタリといつことだ）、運動も常にクラスの真ん中だつた。ついでだが、顔も少し化粧などすれば女に見られてしまつ（もちろんしたことなどない）という男とも女ともとれる中性的な顔である。

そんな普通の俺に人生初の事件が起つた。さらさらのぼる」と

一週間、入試当日母親が交通事故に・・・いえすいません嘘です。嘘つきました、ていうか意地も張りたくなるよ！！試前日にインフルエンザとか！！恥ずかしくて嘘つきましたが、なにか？

こりして行く高校がなくなつてしまつた俺。家族にも恥ずかしいからという理由でマンションをあてがわれ、現在一人暮らし。ひどくね！？親なのにひどくね！？

まあ今時の高校生の例にもれず一人暮らしには少なからず憧れていたのでいいといえぱいいのだが。マンションはこれまた普通で新しくもなく古くもなくといったかんじだが、中は思いのほか広くさつぱりとしていて一人で暮らすには充分すぎるような気もする。これが小説によくあるラブコメティならば、ドアを開けたら美少女がなどというのがお約束だが、もちろん現実にそんなことがあるわけがない。少し現実逃避に実を投じてみたくなつた。

さて、これからどうしようかと頭をひねる。幸い完全に見捨てられたわけではないので月の生活費は実家から送られてくる予定である。家事も料理はそれなりにつくれるで心配することはない。だがただ無駄に遊んでいるわけにもいかずどうしたものかと

考えていたとき玄関からピンポンという客の来訪を告げる音が響いた。隣の住人が挨拶にきたのかな？自分からも挨拶に行かねばと腰を上げドアのチーン

をはずしドアを開けると、四十代ほどのスーツ姿の渋い男性と若い二十代ぐらいのこ

れまたスーツをかっこよく着こなした女性が立つていた。

想像していたものと違い少し戸惑いながらも挨拶をすると、男性のほうが、

「いきなり押しかけて悪いな、私はここで校長をしてるもんだ」

と、およそ教師とは思えない口調で名刺を渡してきた。名刺には天
上天下唯我独尊高校 校長倉内 正蔵 とだけ書かれていた。

「高校の名前長い…これつけた奴どんなネーミングセンスしてんだよー。」

あまりの常識外れの名前に驚いて声を出してしまった。失礼だったかとはっと気づき

「アシタカ」のアシタカのアシタカ

つい礼儀も忘れて大声を出していた。

「だつてかつじいとおもつたし……」

なんかすいません。お気めづちや重いです。

校長はすねているので変わりに女性のほうから説明をうけた。

「私はこの・・・高校で教師をしている佐々 美希といいます。突然ですがあなたは

「ジイの高校にも受かっていませんね?」

「なんでそれを知っているんですか？恥ずかしいんで友達にも数人しか言ってなくて

口止めもしておいたはずなんですが・・・？」

「まーとに勝手ながらこいつで調べさせていただきました。それに
ついては謝罪をし
たいと思つていますがそれは後ほど。とにかくの・・・天上天下
唯我独尊高校のこ
とを知つていますか?」

「ええ、まあそれなりに。最近できたばかりの私立校である大企業
から莫大な支援を
受けているのだとか。たしか天才、なんらかに秀でたものにしか入
れない高校だと聞
いていますが?」

「ええ、おおむねそれらであつてします」

「で、その天上天下唯我独尊高校の先生方がどうしたんですか?」
やつぱ言つにくらいな、佐々さんも言いたくなさそうだつたし。

「その質問には私が答えよ!」

先ほど今まで地面にはこいつばつていた校長はムクリと起き上がり急
に、

「君を我が高に入学させたい」と言つてきた。

「・・・・・・・・・・・・・・は?」

「もちろんただでとは言わない。授業料などはこいつで全額負担す
るつもりだ。

決して悪い話ではあるまー?」

「ちょっと待ってください！なんで俺なんですか？俺は何の才能も持つていません。なにかに秀でてもいない普通の凡人です。」

「いやそれこそが才能なんだ！君は普通すぎる」との天才だ。中学校、いや小学校かずっとテストで平均点を取ってきた。一点も上でなく下でもない。それがどんなにすごいことかわかるか？それはテストで満点を取り続けることよりもなお難しい。普通神より授かりし普通の才を持つもの。普通すぎるがゆえに普通ではない、普通で有り続けることの天才、それが君だ」

「普通の神様なんているかー！…そんな才能ほしくねええーー！」

こうして俺はこの変な高校に通うことになってしまった。学校のことを詳しく説明する日がいつか来るかもしれないが、そのときは愚痴でも聞いてくれ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7067f/>

天上天下唯我独尊高校

2011年1月26日15時38分発行